

多文化共生事業事例集

年度

R5

団体名

福山市

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

事業費総額 1,116 千円

事業名

多言語サポーター（災害、子育て支援）養成、スキルアップ事業

概要

誰もが安心・安全に暮らせるよう、外国人市民支援体制の構築のため、災害及び子育て(母子保健サービス)に関するサポーター養成とスキルアップに係る講座を実施。災害関連講座は、全4回開催し延べ56人が受講。子育て関連講座は、全3回開催し延べ52人が受講。受講者の対応可能言語は、各講座10言語となり、新たな人材の発掘に繋がった。特に災害関連講座では、本市の防災士を交え、受講者同士の意見交換を行うなど、今後の施策実施の方向性などを検討する機会となった。

事業のポイント

◇下記の背景があることから、誰もが安心・安全に暮らせるよう、外国人市民支援体制の構築のため、災害及び子育て(母子保健サービス)に関するサポーターの養成とスキルアップに係る講座を実施した。

事業の背景・目的

【災害関連】

2019年の「福山市多文化共生の推進に関するアンケート」から、災害時の避難場所確認や避難グッズ準備等「何もしていない」と回答したのは35.0%である。加えて、2020年の「外国人市民の情報収集にかかわる実態調査」から、入手に困っている情報を「災害情報」と回答したのは50.1%である。

上記調査から、①平時から災害への備え等防災・災害情報を持つことが重要、②迅速に災害に関する情報を受取ることができれば、外国人市民も災害時の不安を軽減させ、正しい行動をとることができる。と考える。

【子育て支援】

2022年度9月から子育て支援通訳ボランティア派遣事業を実施しており、「乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん訪問事業）」への通訳派遣をおこなっている。本事業については今後、「乳児家庭全戸訪問事業」に限らず、派遣対象事業を拡大していく予定である。

ついては、外国人支援（災害、子育て）サポーターの養成及びスキルアップにより、外国人の平時から災害への備え、防災・災害知識の取得や子育てにおける言語支援等により安心して生活ができる環境づくりに繋げていく。

事業の詳細

1. 対象者

- 外国人支援に参加意欲がある18歳以上の人
- 日本語及び外国語で日常生活レベルの会話ができる語学力を有する人

2. 講座内容

【災害関連講座（全4回）】延べ56人参加 対応可能言語10言語

1回目：8月19日（土）13:30～17:00（子育て関連との共通講座）

- 福山市の外国人市民の現状や多文化共生に関する基礎学習
- コミュニティ通訳の心構え・ケーススタディなどをグループワーク等で学習

2回目：9月30日（土）10:00～17:00

- 福山市で過去に起きた災害による被災状況について
- 福山市の災害時の情報源について学び、正しい情報の入手方法を学習
- 避難時の注意点、自助・共助・公助等の自分自身の役割について
- 広島県地方気象台職員による、自然災害についてとキキクルの説明
- 広島県自主防災アドバイザーによる、マイタイムラインの活用方法の説明

3回目：10月22日（日）9:00～16:00

- 消防局職員による災害時に役立つ応急・救急手当についての講習及び防火研修
- 防災リーダーによる防災リーダーの活動についての紹介
- 防災グッズについて学び、グループワーク等で防災バックの中身について検討

4回目：12月10日（日）13:30～15:30

- 防災リーダー女性部メンバーを交え、意見交換会
- 今後の活動についてグループ内で検討

【子育て関連講座（全3回）】延べ52人参加 対応可能言語10言語

1回目：8月19日（土）13:30～17:00（災害関連との共通講座）

2回目：9月24日（日）9:30～16:00

- 子育て支援通訳ボランティア派遣事業についての説明
- 福山市の母子保健サービスについて学習
- 保健師による妊娠・出産・子育てにかかわる基礎知識に関する講座

3回目：10月15日（日）9:30～16:00

- 子育て支援通訳ボランティア経験者の経験談
- グループに分かれて、模擬通訳練習



子育て支援関連講座



子育て支援関連模擬通訳の様子



災害関連講座

事業実施における工夫点・事業の成果等

災害関連講座（全4回）

延べ56人参加、対応可能言語10言語（英語、タガログ語、中国語、韓国語、ポルトガル語、インドネシア語、台湾華語、ラオス語、スペイン語、ベトナム語）

子育て関連講座（全3回）

延べ52人参加、対応可能言語10言語（英語、中国語、タガログ語、韓国語、ベトナム語、台湾華語、インドネシア語、タイ語、ラオス語、スペイン語）



災害関連講座 意見交換会の様子

今後の課題・将来に向けての展望等

各講座参加者の対応可能言語に偏りがあり、市内在住の外国人市民に十分対応できる人員を確保できたとは言いがたいが、これまでに外国人支援活動に携わったことのない人の参加もみられるなど、新たな人材の発掘に繋がった。

災害関連については、当初想定していた活動の一つとして、各サポーターが所属するコミュニティでの情報発信を検討していたが、想定していた程度のコミュニティが把握できなかったことなど課題があることや、サポーターの具体的な活動の場の設定ができていないことが課題である。

今後関係課や他市町等と連携をし、「ふくやま防災多言語サポーター」の活動を充実させていく。

子育て関連については、模擬通訳練習を通じて、子育てに関する知識を持っていたとしても、実際に通訳するとなると難しいと感じる参加者が多くいた。今後も本市の母子保健事業実施課と連携し、模擬通訳等の研修機会を充実させていく。また、「子育て支援通訳ボランティア派遣事業」における派遣対象事業の拡大も検討する。

引き続き、養成、スキルアップ事業を実施し、外国人支援体制の強化に取り組んでいく。

事業担当者のふりかえり

・災害関連講座については、新たな人材との繋がりができる良い機会となった。防災リーダーや参加者の皆さまから出た外国人支援に対する考えなどを、今後の事業に生かしていくとともに、「ふくやま防災多言語サポーター」の活動を充実させていきたい。

・子育て支援関連講座については、模擬通訳を実施し、各自の語学スキルの把握や通訳の立ち位置などについて学ぶ機会となった。引き続き、外国人市民が安心して子育てができる環境づくりに取り組みたい。